

●幅広い適用作物！多くの害虫に効く！

殺虫剤

ディプテックス[®]乳剤

(DEP 乳剤)

有効成分：DEP (PRTR 法第 1 種 -225 号) …50.0%

その他成分：ポリ(オキシエチレン)＝ノニルフェニルエーテル[®]は登録商標
(PRTR 法第 1 種 -410 号) …6.0%

農林水産省登録第 3233 号
性状：赤色可乳化油状液体
毒性：劇物
危険物：4-1 石-Ⅱ
有効年限：3 年
容量：500ml×20
100ml×60

特長

●適用範囲が広い！

水稻、果樹、そ菜、特用作物、花卉、樹木などに使えます。

●多くの害虫に適確な効果！

食毒、接触毒、ガス毒の 3 つの殺虫作用があり、特に食毒に優れています。

●作物に安全！

葉害の危険性が少なく、多くの作物に使用できます。

●街路樹、庭園樹の防除にも最適！

アメリカシロヒトリなどケムシ類にも卓効があります。

適用病害虫名と使用方法

平成 22 年 11 月現在の登録内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用時期	本剤の 使用 回数*	使用方法	DEP を含む 農薬の総使 用回数*
稲	ニカメイチュウ第 1 世代	700	14 日*	4 回	散布	4 回
	ニカメイチュウ第 2 世代 サンカメイチュウ第 3 世代	500				
	フタオビコヤガ	2000				
	イネツトムシ、イネドロオ イムシ、ウンカ類、アワヨ トウ	1000				
	カメムシ類	500～1000				
	イネヒメハモグリバエ	700～1000				
みかん	カメムシ類	800～1000	30 日*	5 回		5 回
りんご	ハマキムシ類、マイマイガ	1000～1200	14 日*	3 回		3 回
かき	カメムシ類、イラガ類、ミ ノガ類	1000				

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫（摘採）前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用時期	本剤の 使用 回数*	使用方法	DEPを含む 農薬の総使 用回数*	
なし	ハマキムシ類	500~1000	7日*	5回	散布	5回	
ぶどう	コガネムシ類成虫	1000	30日*	2回		2回	
キウイフルーツ	カメムシ類、コガネムシ類 ハマキムシ類、ミノガ類		60日*	4回		4回	
くり	モモゴマダラノメイガ	500	裂果前	5回		5回	
メロン	ウリハムシ成虫	800~1000	前日*	4回		4回	
まくわうり	アブラムシ類	500~1000					
すいか	ウリハムシ成虫	800~1000	7日*	6回		6回	
かぼちゃ	アブラムシ類	500~1000					
いちご	ドウガネブイブイ幼虫	1000	移植 活着後 (仮植床)	3回		1㎡当り2ℓ 苗床灌注	3回
	アブラムシ類	500~1000	30日*				
	イチゴメセンチュウ	500					
なす	テントウムシダマシ類 ヨトウムシ、アブラムシ類	1000	前日*	6回	散布	6回	
きゅうり	ウリハムシ成虫、アブラムシ類		14日*				
だいこん	コナガ、ヨトウムシ、アオムシ、 キスジノミハムシ成虫						800~1000
	ハイマダラノメイガ	500~1000					
	アブラムシ類						
かぶ	コナガ、ヨトウムシ、アオムシ、 キスジノミハムシ成虫	1000	21日*	1回	1回		
カリフラワー	ハイマダラノメイガ、 アブラムシ類		14日*	2回	2回		
はくさい	コナガ、ヨトウムシ、アオムシ		800~1000	7日*	5回	5回	
	ハイマダラノメイガ						
	アブラムシ類						
キャベツ	コナガ、ヨトウムシ、アオムシ、 キスジノミハムシ成虫	1000	6回	6回	6回		
	ハイマダラノメイガ	800~1000					
	アブラムシ類	500~1000					
畑わさび	カブラハバチ、アオムシ、	1000	30日*	2回	2回		
わさび	コナガ、ヨトウムシ		畑育苗期				

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫（摘採）前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用時期	本剤の 使用 回数*	使用方法	DEPを含む 農薬の総使用 回数*	
にんじん	キアゲハ幼虫	800~1000	14日*	3回	散布	3回 (粒剤は2回)	
ばれいしょ	テントウムシダマシ、ヨトウムシ	1000		6回		6回	
	アブラムシ類	500~1000		4回		4回	
かんしょ	ナカジロシタバ、ハスモンヨトウ、イモコガ	700~1000		4回		6回	6回
	アカビロウドコガネ成虫	500		2回		2回	
てんさい	ハスモンヨトウ	1000		6回		2回	2回
	ヨトウムシ	500~700		3回		3回	
茶	コカクモンハマキ、チャドクガ、チャノホソガ	1000		2回		2回	
とうき	キアゲハ	2000		収穫30日*		3回	3回
食用へちま	ヒメクロウリハムシ	1000		収穫7日*		2回	2回
みずいも	ハスモンヨトウ		収穫14日*	2回	2回		
かんしょ (茎葉)	ナカジロシタバ		収穫21日*	—	—		
たばこ	ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、タバコアオムシ		—	—	—		
芝	スジキリヨトウ		発生初期	6回	1m ² 当り1~1.5ℓ灌注	6回	
いね科牧草	アワヨトウ		45日*	4回	4回		
まめ科牧草	ハスモンヨトウ、ゾウムシ類			4回	4回		
桑	クワノメイガ、アメリカシロヒトリ、ヒシモンヨコバイ、ハゴロモ類		1000	14日*	—	—	
花き類・ 観葉植物 (カーネーション、宿根かすみそう、ほおずきを除く)	ヨトウムシ類			発生初期	6回	6回	
カーネーション	アオムシ、コナガ、ハモグリバエ類、ヨトウムシ類			発生初期	6回	6回	
宿根かすみそう	ハモグリバエ類、ヨトウムシ類						
ほおずき	テントウムシダマシ類、カメムシ類、ヨトウムシ類						

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫（摘採）前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用時期	本剤の 使用 回数*	使用方法	DEPを含む 農薬の総使 用回数*	
樹木類 (さんごじゅを除く)	マツケムシ、ウメケムシ、 マイマイガ、モンクロシャ チホコ、ミノガ類、クスサ ン、ミノウスバ、チャドク ガ、キオビエダシャク、ユ ウマダラエダシャク	1000	—	—	散布	—	
	アメリカシロヒトリ	1500					
さんごじゅ	アメリカシロヒトリ	1000	発生初期	6回			6回
	アブラムシ類、ワタノメイ ガ、マツケムシ、ウメケム シ、マイマイガ、モンクロ シャチホコ、ミノガ類、ク スサン、ミノウスバ、チャ ドクガ、キオビエダシャク 、ユウマダラエダシャク						
まつ類	マツノキハバチ、カラマツ アカハバチ	1000~1500	幼虫期	—	—		
いちょう (種子)	クスサン	1000	収穫30日*	3回	3回		

無人ヘリコプター、空中散布の適用害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用 液量 /10a	使用時期	本剤の 使用 回数*	使用方法	DEPを含む 農薬の総使 用回数*
稲	ニカメイチュウ、フタオビ コヤガ、イネツトムシ、ウ ンカ類、アワヨトウ、カメ ムシ類、イネドロオイム シ、イネヒメハモグリバエ	20	3~4ℓ	14日*	4回	空中散布	4回
	カメムシ類	5	0.8ℓ			無人ヘリコプ ターによる散布	
くり	モモノゴマダラノメイガ	10	3ℓ	裂果前	5回	空中散布	5回
桑	クワノメイガ、アメリカシ ロヒトリ	50	3~4ℓ	14日*	—	空中散布	—
	ハゴロモ類	10	0.8ℓ				
まつ	マツカレハ	6	6ℓ	幼虫期	—	—	—

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫（摘採）前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す

■■■ 効果・薬害等の注意 ■■■

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用は避ける。
- 稲に使用する場合は、散布後少なくとも3日間は落水、かけ流しはしない。
- りんごに使用する場合は、旭、祝、あかねには薬害を生ずるおそれがあるので使用は避ける。
- 柿に使用する場合は、富有など品種によって4月～6月頃の新葉期には薬害を生ずることがあるので、この時期の使用を避け、葉の硬化を待って使用する。
- 果樹のカメムシ類防除に使用する場合は、残効性が短いので、発生に応じてくり返し散布する。
- いちごのドウガネブイブイ幼虫防除に使用する場合は、仮植床で使用し、子苗の活着後床面全面に所定量を如露等によって均一に灌注する。なお、土壌が乾燥していると効果が劣るので、土壌水分が適湿の時施用する。
- 芝のスジキリヨトウ防除に使用する場合は、本剤の所定希釈液を1m²当り1～1.5ℓ芝の上から如露等により全面に灌注する。
- 牧草地に散布した場合、散布後45日間は放牧しない。
- まめ科牧草のアルファルファゾウムシに使用する場合は、幼虫発生期～成虫発生初期に散布する。なお、防除適期については病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤は自動車に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意する。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤を使用したわさび苗を畑地からわさび田に移植する場合には、使用した農薬がわさび田の水系に持ち込まれないよう、わさびの苗に付着した土を十分に洗い落とす。

【空中散布及び無人ヘリコプターによる散布の注意】

- ソルゴー、アルファルファ（1番草）、りんごの旭、祝、あかねには薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布する。
- 散布薬液の飛散によって他の動植物及び自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意する。
- 散布は各散布機種 of 散布基準に従って実施する。
- 無人ヘリコプターによる散布にあっては散布機種に適合した散布装置を使用する。
- 少量散布（5～10倍液）には微量散布装置以外の散布器具は使用しない。
- 散布中、薬液の漏れのないように、機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行う。
- 水源池、飲料用水、養魚池、養魚田等に本剤が飛散流入しないように十分注意する。
- 特定の農薬（混用可能が確認されているもの）を除いて、原則として他の農薬との混用

は行わない。

- 桑の害虫に対する空中散布の場合、老令幼虫に対しては効果が不十分な場合もあるので、若令幼虫を主体に使用する。なお、養蚕地帯、稚蚕飼育場等の周辺では飼育期間中の使用は避ける。
- 散布終了後は次の項目を守る。
 - 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に適切に処理する。
 - 使用残りの薬剤は、必ず安全な場所に責任者を決めて保管する。
 - 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理する。

■■■ 安全使用上の注意 ■■■

- 蚕に対して影響があるので、桑に使用后 14 日間は蚕に桑葉を給餌しない。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意する。
 - ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しない。
 - 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の果樹園等では使用をさける。
 - 養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡する等、周辺への飛散に注意し、ミツバチの危害防止に努める。
- 眼に対して刺激性があるので、薬液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 散布の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用する。無人ヘリコプターによる散布の際は保護眼鏡、防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- ハウス内で散布した後は十分に換気してから入室する。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用后（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意する。
 - 誤って飲み込んだ場合には、吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせる。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。
- 火災時は、適切な保護具を着用し消火剤等で消火に努める。
- 漏出時は、保護具を着用し、布・砂等に吸収させ回収する。
- 移送取扱いは、ていねいに行う。

解毒剤…硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤。

魚毒性等…養魚田では使用しない（魚類）。河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する（甲殻類）。空中散布及び無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意する。河川、養殖池等に流入

しないよう水管理に注意する。使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保管…密栓し、火気を避け、食品と区別して、直射日光の当たらない冷涼な所。カギをかける。盗難・紛失の際は、警察に届け出る。

- 飲めません。
- 有効年月内に使用する。
- 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取扱い及び作業をしない。